

事務所名	宮古教育事務所	学校名	宮古市立宮古小学校	TEL	0193-62-2009
------	---------	-----	-----------	-----	--------------

「チーム宮古」で取り組む学力向上

【今年度の目標】

- 全教科で正答率を県比の95%以上となること。
 - ・県学調、全国学調B問題で正答率を県比100%に近づける。
 - ・国語科では、「書くこと」の向上に向けた取り組みを強化する。
- 県学習定着度状況調査における児童生徒質問紙の設問にある3項目について、県比100%に近づけること。
 - ・家で調べたり、文章を書いたりする宿題があると思いますか。
 - ・学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間勉強しますか。
 - ・学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間読書を読みますか。
- 国語・算数の低学年における基礎・基本の徹底を図ること。

【組織的な対応を図る上で工夫すること】

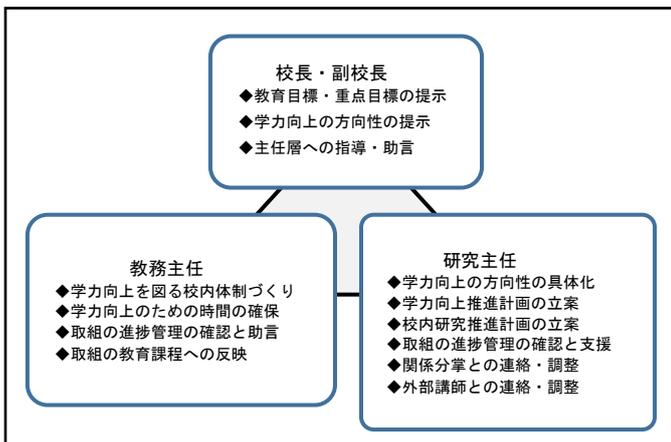
- 「だれが」「何を」「いつ」「どのように」取り組むのか、学力保障の具体的な取組を「見える化」する。
- I 主任層の役割分担、主任層と各担任の連携、家庭との連携の在り方の明確化
- II CAPDサイクルに基づいた組織的な学力保障の取組
- III 学力保障の取組と家庭学習との連動

【具体的な取組】

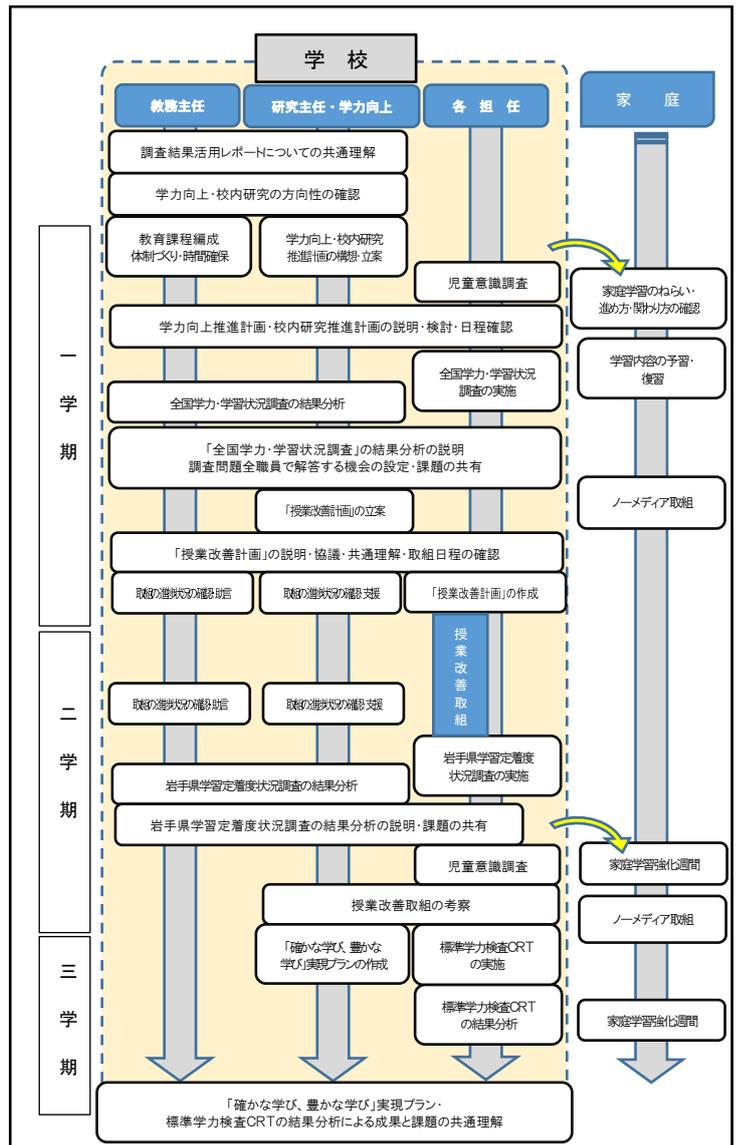
I 主任層の役割分担、主任層と各担任の連携・家庭との連携の在り方の明確化

組織的な取組として学力向上を推進していくためには、個人ではなく組織全体としての方向づけが大切である。そこで、校長・副校長の指導の下、主任層の役割分担をし、それぞれが「何を」していくのかを明確化し、体制づくりを図った。【資料1】

また、「主任層と各担任の連携・家庭との連携の在り方」を提示し、学級・学年の壁を越えて組織的に対応するために、「だれが」「何を」「いつ」「どのように」取り組むのかというCAPDサイクルに基づいた年間スケジュールも明確化した。【資料2】



【資料1】主任層の役割分担



【資料2】主任層と各担任の連携、家庭との連携の在り方

II CAPDサイクルに基づいた組織的な学力保障の取組

1 諸調査結果を受けての課題の明確化と全職員での共有と活用

学力向上の取組を組織的に進めるためには、全職員が課題を共有し、児童に求められている力についての理解が必要と考えた。そこで、次のことに取り組んだ。

- (1) 「岩手県学習定着度状況調査」(H28) 「全国学力・学習状況調査」(H29) を分析して課題を明らかにすること。
- (2) 校内研究会において、「全国学力・学習状況調査」の調査問題の中で正答率の低かった調査問題について全職員で解き、交流する場を設定すること。

なお、(2)においては、調査問題を解いた後に低学団・中学団・高学団・担任外で交流の場を設けた。授業で意識すること、それぞれの学年・学団において授業改善に役立てることについて話し合いをした。

2 「学力向上に資する授業改善の取組計画」の作成と実施

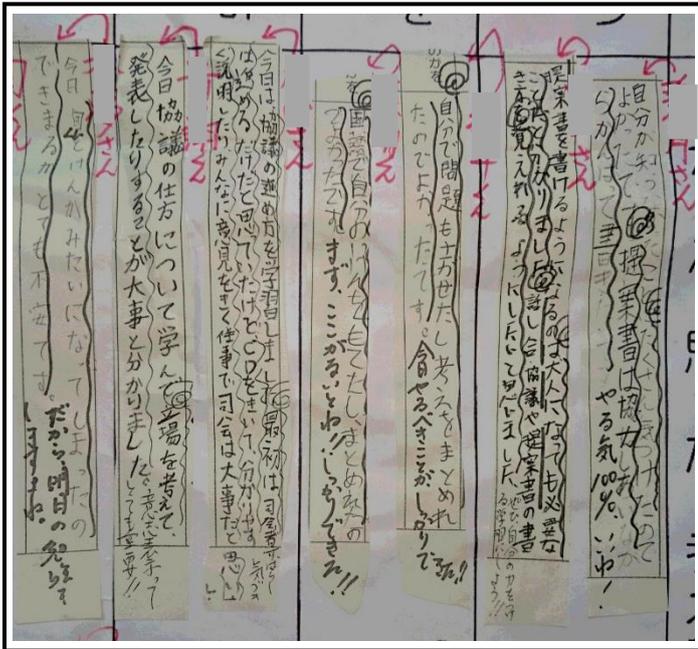
諸調査結果を受けての課題を全職員で共有したことを受け、その課題に向かって授業改善を積み重ね、取り組んでいくことの共通理解を図った。下記のように、「学力向上に資する授業改善の取組計画」を各学年で立案し、全学年において「授業」を核とする取組を推進することとした。

なお、「【資料2】主任層と各担任の連携、家庭学習との連携の在り方」、「学力向上に資する授業改善の取組計画」等については、スケジュールの進捗状況が分かりやすいように、職員室の研究部コーナーに掲示し、「見える化」を図っている。全職員が日々目にする場所であり、組織として取り組んでいる状況を確認することができるようになってきている。掲示物をもとに、それぞれの学年の取組について交流するなど、掲示の効果が出ている。

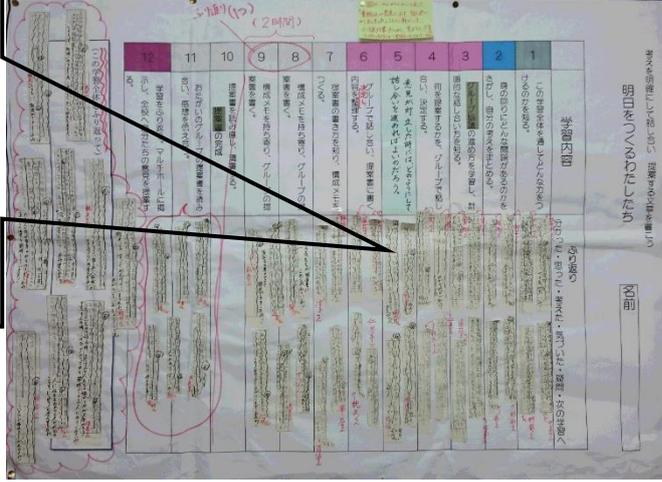
【資料3】

【資料3】 学力向上の取組に関する掲示





個々の振り返りを教室掲示することで、良い記述の仕方を学ぶことができたり、単元の見直しをもったりすることができた。また、自分の振り返りが掲示されることで、学習意欲にもつながった。



《振り返り活動のよさ》
 (教師側) ◎児童の変容をとらえることができた。
 ◎指導と評価の一体化を図ったり、次時につなげたりすることができた。
 (児童側) ◎学習の主体者である児童が、できた(理解した)ことが分かったり、協働的な学びのよさに気付いたりすることができた。

Ⅲ 学力保障の取組と家庭学習との連動

1 保護者に対する働きかけと連携

学習内容の理解を一層促進するためには、家庭学習が大切である。そこで、研究主任が、PTA総会の場で、「家庭学習のねらい」「時間のめやす」「家庭学習の進め方」「保護者の関わり方」について説明をするとともに、保護者の協力をいただくようお願いをした。

【資料4】

総会后、各学年でさらに具体的な家庭学習の内容について説明し、家庭で取り組むことの確認をした。

なお、家庭学習を進めていくにあたって、保護者からの声を聞いたり、様子を確認したりしながら、共に育てていこうという視点で進めている。また、家庭学習の様子を学年通信や懇談会の場で伝え、連携を図りながら家庭学習に取り組んでいる。

家庭学習について 宮古市立宮古小学校

1 家庭学習のねらい

- (1) 自ら学ぶ習慣を身につけ、人生をより豊かにするための力を育成します。
- (2) 学校で学習したことをより確かに身につけ、新しい学習への基礎をつくります。
- (3) 苦手なことを克服したり、得意なことを伸ばしたりします。

2 学習時間のめやす

(1) 授業日・・・「10分×学年」以上が目標です。
(+読書)

(2) 休日・長期休業中

- 1・2年・・・「60分」以上が目標です。
(読書を含めて)
- 3・4年・・・「90分」以上が目標です。
(読書を含めて)
- 5・6年・・・「120分」以上が目標です。
(読書を含めて)

3 家庭学習の進め方(全学年共通)

- (1) テレビを消す、机の整理整頓をするなど、学習にふさわしい環境を整えます。
- (2) 学習内容を確認し、見直しをもちます。
- (3) 学年に応じて、「学習時間のめやす」を目標に学習を行います。
- (4) 「音読」を毎日行います。

◎音読によって身につく力

- ・漢字の読み
- ・学習内容の定着
- ・正しい話し方

(5) ドリル・プリント等は、自分で(学年に応じて保護者様)答え合わせを行います。間違った問題はやり直します。わからない場合は、学校で担任等に聞きます。

4 保護者様のかかわり方

- (1) 家庭学習に取り組む時間帯を家族で話し合い、家族全員で応援することを確認します。
- (2) テレビを消すなど、学習しやすい環境をつくります。
- (3) 小さな努力や成長でも、できるだけ具体的にたくさん褒めます。
- (4) 学年に応じて、ドリル・プリント等の答え合わせ(丸つけ)を行います。
- (5) 時々、学習量や内容のバランス、ノートの使い方などについて助言します。

※各学年ごとの家庭学習の進め方は、学年通信等でお知らせします。

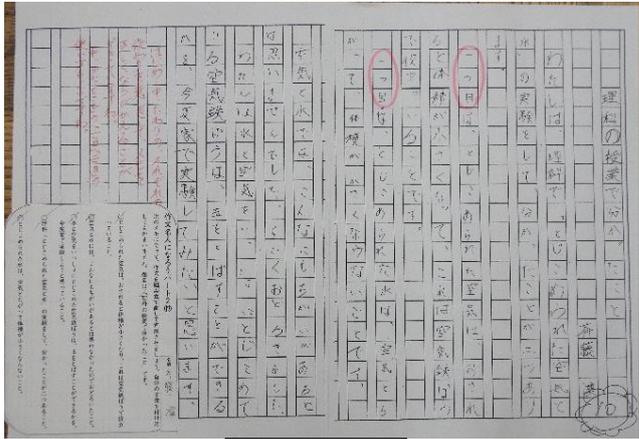
【資料4】家庭学習について

2 「書くこと」の家庭学習での取組

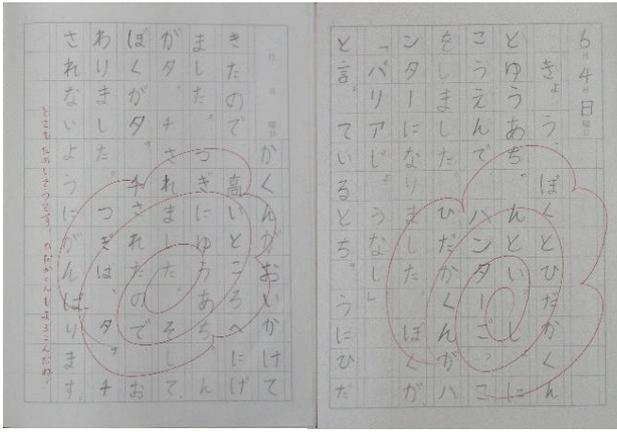
「書くこと」がさらに定着するためには、家庭学習との連動が必要である。そこで、全学年、「週末課題」として文章を書く家庭学習に定期的に取り組んでいる。児童が抱える課題や付けたい力を考え、学団ごとにねらいをもって取り組んでいる。



6 年



4 年



2 年

- 【高学年】**
- ・新聞に載っている内容を把握する。
 - ・条件に合わせて書く。
二段落構成
一段落目...新聞を読んで分かったこと
二段落目...自分の考え
120字以上160字以内
- 【中学年】**
- ・「はじめ・中・おわり」の構成で書く。
 - ・テーマに合わせて、二段落構成で書く。
- 【低学年】**
- ・日記形式
 - ・主述、順序に気を付けて書く。
 - ・「」を正しく使う。

【検証結果】

今年度の目標について、諸調査を活用した学力向上の取組の検証を行い、次のような結果が得られた。

〈表〉現6年生における諸調査結果

調査・比較	年度・諸	H28 県学調	H29 全国学調B問題	比較
国語科における正答率を県比の95%以上とすること。		89.2%	100.0%	+10.8
※「書くこと」の正答率の県比		71.0%	99.5%	+28.5
※「読むこと」の正答率の県比		85.4%	109.7%	+24.3

〈表〉岩手県学習定着度状況調査の結果（上段：県比 下段：H27との比較）

年度	H27	H28	H29
国語科における正答率を県比の95%以上とすること。	90.5%	89.2%	93.5%
		-1.3	+3.0
※「書くこと」の正答率の県比	59.1%	71.0%	76.4%
		+11.9	+17.3
※「読むこと」の正答率の県比	85.7%	85.4%	96.5%
		-0.3	+10.8
家で調べたり、文章を書いたりする宿題があると思いますか。	97.4%	53.4%	97.2%
※「そう思う」、「どちらかというと思う」の肯定的な回答		-44.0	-0.2
学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間勉強しますか。	30.3%	68.1%	100.0%
※選択肢1~3の回答（1時間以上~3時間以上）		+37.8	+69.7
学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間読書を読みますか。	68.3%	73.8%	124.4%
※選択肢1~3の回答（1時間以上~3時間以上）		+5.5	+56.1

【検証結果から明らかになった成果】

検証結果から次のような成果が明らかになった。

- 現6年生における諸調査結果から、国語科の正答率の県比を10～28ポイント増加させることができた。
- 県学調の「読むこと」において、県比95%以上を達成することができた。
- 国語科の正答率、「書くこと」の正答率も5～11ポイント増加させるとともに、県比に近づけることができた。
- 県学調の質問紙における「家で調べたり、文章を書いたりする宿題があると思いますか。」「学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間勉強しますか。」の設問について、県比100%に近づけることができた。
- 県学調の質問紙における「学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間読書をしますか。」の設問について、県比を大幅に増加させることができた。

- 諸調査結果を活用して課題を明らかにし、課題克服のため、「チーム宮古」としての組織的な取組を通して大きな成果を上げることができた。
- 学力保障のためには、「授業」を核として、授業改善を図ることが一番大切であると再確認し、共有することができた。
- 家庭学習においても、ねらいや保護者の関わり方を示したり、情報交換をしたりすることで、学習内容の理解を促進し、「書くこと」の力の伸びにつながった。

【課題】

県学調の「書くこと」の県比は76.4%と前年度と比較すると伸びが見られる。しかし、内訳を見ると、無解答率47%、誤答率18%、正答率35%であり、無答率が高い。無答率が高くなった原因は、長文を読む力、問題を解くスピードが不足していることにあると考える。今後は、従来通りの取組を継続・徹底するとともに、新たな取組を考えて、さらなる学力向上を図っていきたい。